

414
A2410
1



此及外國分債償却ノ一法施設ニ付キ其目的方法ヲ提ケ
内務大藏兩者ノ規約ヲ定ムル左ノ如シ

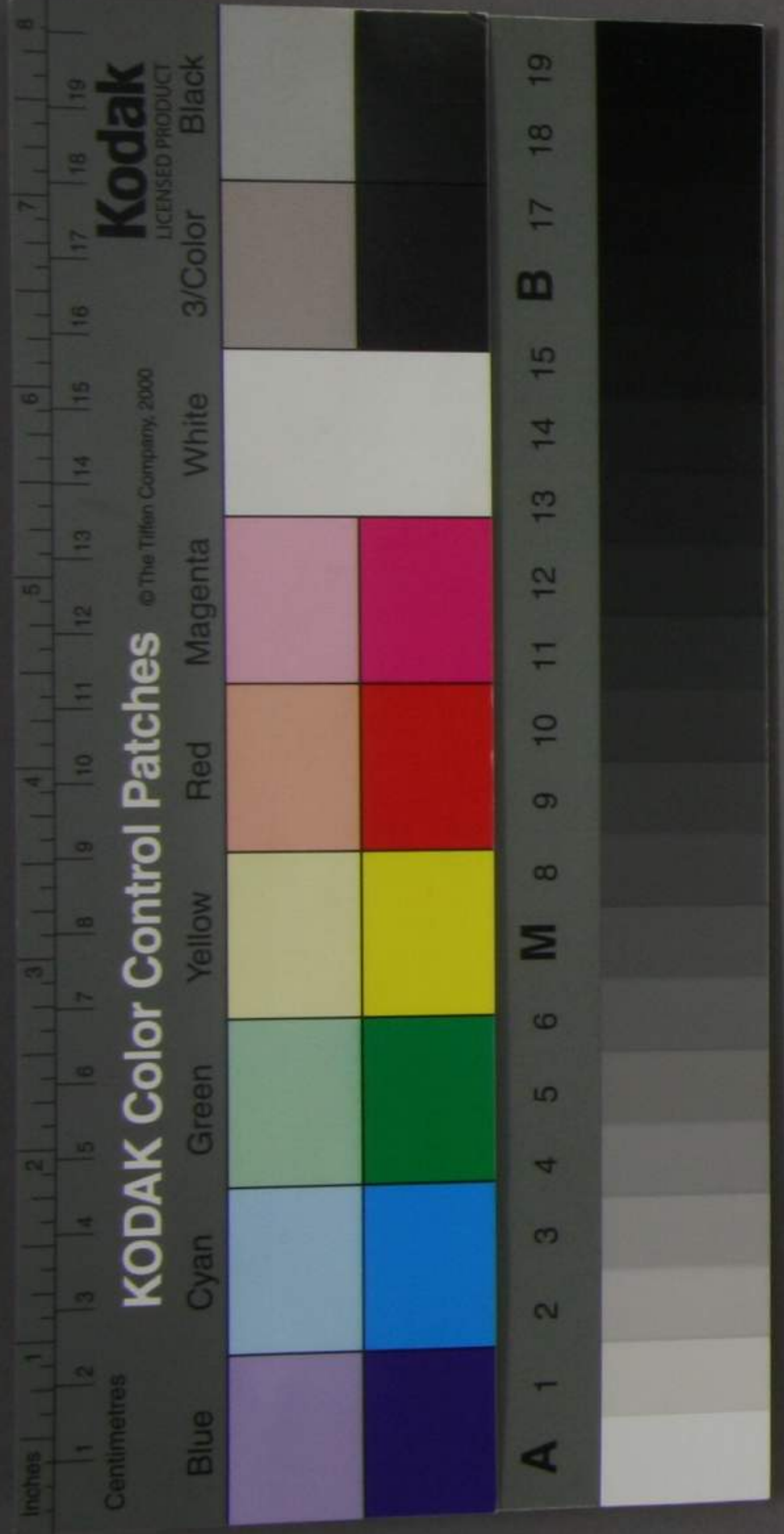
第一條

此施設事務ノ方針ハ我國所産所有ノ該物只ク英國地方へ
運輸シテ之ヲ帝勢高シ其代金ヲ以公債元利ノ償却ニ充テ若シ
ク便宜外國品購求ノ仕拂ニ流用シ以テ現金押出シニ於ケル
該弊害(即チ現貨溢出ノ患ハ摺相場ノ不都合其他)ヲ救済
シ高々内國中ニ於テ物産融通ノ媒分々為シ工業奨励ノ基礎
ヲ立ツルニ在リ

第二條

前條ノ如ク此施設事務ハ一國ノ公益ヲ謀リ後來ノ大利ヲ管
ルノ旨趣ニ過キザルニ付キ我國產ノ内既ニ海外ニ傳播流布シ

大
三
十
日



都合能ク賣却ニ供スルモノヲシテ彌々其新價ヲ感ニセシムルノ道
ニ注^ニ着キテ勿^レ梅^キ未^ク歎^ハレザル物品ト雖^モ一時ノ賤價
損失等ヲ顧^ミズシテ見^テ其^他ヲ回^送シ以^テ彼^地市場ノ賣買ニ
供^シ海外各邦ノ要求ニ應^ズベキノ基址ヲ為^ステ肝^要タルベシ

第三條

此事務ハ内務大藏兩省ノ管理ニシテ内務省ハ勅業寮大
藏省ハ國債寮ニ於^テ之ヲ擔^當尚^且辦理スベシ

第四條

此事務ヲ取扱フニ右各寮協議ノ上然^ルベキ官^員一^二名ヲ英
國ハ派遣シ此官^員ヲシテ彼^地ノ商會^{又ハ}商會^中ニテ尤^モ確^實
ニシテ信^憑アルモノ一^二名^ヲ見^立テ其^中一^名ヲ即^チ此^事ヲ取^扱ハシム
ル為^メノ用^意ヲ申^付ケ之^ト適^當ノ約束^{又ハ}申^合ヲ為^シ以^テ取^扱
ヲ取^扱ハシムベシ

第五條

右ノ如ク官^員ヲ派遣シ此事務ヲ取^扱ハシムルニ其^時ハ内務大
藏兩寮ノ協議ヲ以^テ適^當ノ委任^狀又^ハ心得^書ヲ與^ヒ此官
員^ヲシテ遵^行セシムベシ但^シ右^各委任^書他^ノ條件^ハ概^シ左
ノ如^シ

第一 申^付クベキ「エゼント」ノ名義^共其^者ノ擔^任振^{（即チ請}

負^{若シクハ}賣^却キノ取^扱ヲ為^{サシムルノ類}）

第二 「エゼント」ヲシテ賣^買文^據上ニ於^{ケル}必要^{事務}ヲ取^扱

セシムルノ事

第三 我^物產^運送^方ニ於^テ一切^{事件}ノ取^扱ヲ振^リ

第四 「エゼント」ヲ申^付ケ替^{ユルノ事}

第五 賣^却代^金等^ヲ以^テ公^債償^却ニ充^{ツルノ手}續

第六 臨時^{外國}品^ノ購^求アルニ付^キ代^金仕^押ノ手^續

第七 彼地ニ於テ得意ノ銀行ヲ取極メ預ケ金其地金錫並
押一切ノ事ヲ依頼スルノ事

附リ預金ニ於ケル利子ノ割合ヲ取極ムルノ事

第八 高賣貿易上ニ於ルニ必要ノ事件ヲ探訪報告セシム
ルノ事

第九 諸報告ノ事

第十 委任ノ事務上ニ於テ便利ナリト思考スル條件ヲ具
状申陳セシムル事

第六條

第三條ノ如ク此施設事務ハ初業國債兩寮ニ於テ之ヲ擔當辦
理スルニ付テハ其職務權限等ヲ定ムルヲ左ノ如シ

第一節 初業寮ニ於テ擔當辦理スベキ事件ハ

第一項 我國産ノ内何品ニ限ラズ工業其地ヲ獎勵初

スル為メ彼地ニ差込スベキ該物品ヲ常ニ注意具備シ荷
據其他自ソ海外輸送ノ用ニ供スル迄ノ手續ヲ為シ之ヲ國
債寮ニ付與シ又ハ便宜自個ニ之ヲ海外ニ輸送スル事

第二項 初業寮所轄ノ工場(即チ富岡製糸場ノ類ニ
於テ)造出ス諸物品前同所ノ事

第二節 國債寮ニ於テ擔當辦理スベキ事件ハ

第一項 我國物品ヲ取極メ之ヲ輸送シ及賣捌クノ事

第二項 右賣捌代金ヲ以テ公債償却ノ用ニ充ルル事

第三項 購求外品ノ代金仕掛方共ニ其他金錢ノ遺押
一切ノ事

第七條

前條第一節第二項ニ掲載セル物品ノ具備(又ハ自個ノ輸送方ニ
係ル所ノ費用ハ一切初業寮ノ定額金ヲ以テ之ヲ辦シ其賣捌代金

券ヲテ以テ公債償却ニ充テ又ハ便宜購求外品ノ仕押ニ流用スルモノトスヘシ且右金額ノ内公債ノ償却ニ充テタル分ハ尙分ノ内初業寮ト差引勘定ヲ立テズシテ追テ以テ投事等ノ盛大準備金額ノ増殖ヲ待テ該寮ノ定額金ヲ増スモノトスベシ尤前段購求外品ノ仕押ニ流用シタル分ハ此購求專ラ諸官者聽其他ノ依頼需用ニ出テタルモノナレバ追テ國債寮ニ於テ夫レノ計算ヲ立テ之ヲ其官者聽等ヲ取立テ以テ公債償却ノ用ニ充ツベシ

但レ本文ノ次第ニ付キ派出官等ハ右等金額遣押ノ時々能ク其金額事由等ハ公債若キハ初業寮ヨリ差引タル見本何々何ノ類ヲ詳細ニ記載シ置キ却債毎トニ之ヲ國債寮へ通知スベシ國債寮ニ於テハ此記載ニ則トリ其官者聽等ニ對シテ之ヲ取立テ以テ後日ノ公債償却ニ充ツベシ故ニ此場合ニ於テハ前段ノ物

品代金全ク公債償却ノ用ニ充テ其之ヲ購求外品ノ仕押ニ供スルモノハ殊トニ一時ノ流用抑替タルニ過キザルノミ

第八條

官ノ庫米ハ勿論

國債寮ニ於テ我該物品ヲ蒐集輸送スルニ付キ其物品ノ前段初業寮ノ具備スベキ物品ヲ始メ鑛山寮開拓使其他諸官府ノ管轄送

第九條

國債寮ニ於テ我該物品ノ輸送方ヲ處分スルニ内國ノ豪商又ハ商會中ニ於テ適当ナリト思考スルモノヲ精選シ其用途ヲ申付ケ之ト適当ノ規約ヲ取極メ右輸送物品ノ蒐集方其他凡ソ内國取リ關係セル諸事件ヲ取扱ハシメ及ヒ此者ノ名前ヲ以テ彼地ノ「エセント」此諸外國人ニ應酬セシムベシ但シ此豪商又ハ商會トノ規約ハ追テ便宜ノ事件ヲ見計ラヒ

夫レタ之ヲ取テモトス

第十條

國債寮ニ於テ我諸物品ヲ輸送スルニ第一其物品ノ内外ニ於ケル價格數量其他ヲ照査審案シ到尙海外賣場ノ便利ニ供シテ内地空乏ノ弊患ヲ取ラサルト見込ム種類ノ外ハ根リニ之ヲ輸送セザルヲ要シテ止ムヘシ

第十一條

國債寮ニ於テ金錢遣拂ノ事ヲ處分スルニ内地ニ在ル東洋銀行ニ倚頼シ之ヲシテ其率ヲ取扱ハシムルト從前ノ通りタルヘシ故ニ派出官員ノ彼地ニ於テ倚頼スル所ノ銀行モ彼此同一ノ銀行ト取扱ムシムベシ

第十二條

國債寮ニ於テ我諸物品ヲ購收輸送スルノ費用ハ準備金ノ内ヲ以テ

之ヲ支拂スルモノトシ其金高ハ毎歲百五十萬円以内(即チ明治八年ヨリ毎歲償却スベキ公債元利ノ凡積リ)ヲ以テ其制限ト爲シ(第十條ノ旨趣ニ基キ我諸物品ノ内外ニ於テ實況寫ト見後ヒノ上)ヲ以テ前段購收輸送ノ事ニ派用シ通次公債償却ノ用ニ充ツヘシ

第十三條

前段費用ノ外凡ソ此施設事務ニ付キ生スル所ノ諸雜費即チ派出官員差備使外國人(即チ今段周旋方倚頼ノ米人)ノ井ヤムス(ノ如キ)ノ旅費日當給料滞在費用意金等ノ出助(事務方ニ端緒ニ屬シ目的確定ニ難キガ故ニ)當分ノ内兩省協議ノ上適宜ニ之ヲ取極メ置キ(即チ此節派出官員齎ラス所ノ用意金ニ既ニ兩省ノ定額金ヨリ之ヲ辨シ其儘差指クベキモノ)ハ之ヲ差指クノ類(殊トニ此舉ノ得失ヲ明知シ若シクハ後)亦ノ換蓋ヲ確定スル爲メ今ヨリ謹テ其出助等ヲ詳明記載シ置キ追テ此施設事務ノ盛大準備金額ノ増殖ヲ待テ夫レ々ノ計畧

ヲ立テ押返シ其他ノ手續ニ從事スルガ故ニ國債寮ニ於テハ之レガ爲
メ一種ノ簿冊ヲ製シ石等諸雜費ノ支給アル毎ニ能ク其記載ヲ
誤ラサルヲ要スベシ

第十四條

派出官及彼地ニ於テ其用意金ノ内ヲ以テ餽贈接待其他ノ公
費ニ充テタル分ハ都テ成規ニ照準シ仕押精算ヲ立テ其都度
之ヲ國債寮ヘ申達スベシ

第十五條

此施設事務ハ當分ノ内英國在留公使ヲシテ之ヲ監督指揮セ
シムルニ付キ便宜ノ事件ヲ見計ラヒ書面ヲ以テ右公使ヘ委任
所ノ次第アルベシ

第十六條

此規約ノ條々ノ事宜次第兩省協議ノ上加除改正スルコトアルベシ

明治八年十一月

内務卿大久保利通

大藏卿大隈重信

尚子樂行

月
務
首

九
新
牛

天正十一年四月
陳侯
贈

國債ノ返辨法、其高業ヲ勸奨シ物産ノ販路ヲ開拓
ナラシムルノ旨趣ハ已度ヘノ申上リ、茲ニ於テ詳説ナレハ又、
ト在ル者年ノ順序ハ外人ニ由ルモノト知テ或ハ小異ナリ能
ハカレモアルヲ試ニ其條目ヲ列ス

一 般般ノ官貨中ノ身

第一 一般般ノ物産ヲ其意ヲ勸業寮ノ官貨ト

ルヲ可公唱スハ也

第二 勸業寮ヨリ出ルモノ所以方趣ハ左ノ目ヨリ達スハ

キカ者メナルヲ示シテ其端緒ニ着クヘシ

本邦貿易通商ノ為ニ各港ヲ開キ既ニ蒙歲ヲ從
ルトモ不ク物産ヲシテ度リ海外人ニ之ヲ需用スル方
スルヲ能ハス故ニ一般内務大藏兩省ニ長官ヲ設テ
上勸業寮ノ旨ヲ試ニ本邦物産ノ長官ヲ設テ

内務省

ラシ其國ニ派遣セシメ正確ナル巨高ト高ノ將來ノ

條約ヲ定メ從我國民ノ利益ヲ振興セトス

第三 紅毛ノ物産ノ價格其他ノ諸部ヲ將來自的

ヲ得トノ如ク、然ラハ印度陸勸業寮官吏ノ在リテ各種ノ是

布ノ態ニ相若ク條約ヲ定ムルヲ得ヘシ

九リト至モ將來ノ物産ニ於テハ必ズ左ノ目的ヲ達シ一己ノ高民ヲシ

テ聊果實ヲ取別ヲ為カシムルヲ保證スルノ物ヲ為スヘシ

第四 本條條約ヲ達テ試驗ノ上將來此事業ヲ達スルヲ得

ルノ目的アルニ於テハ内務大臣兩省ノ長官第一任自スル後一人

或ハ二人ヲ輔翼トシ若シテ必ズ此業ヲ成ルニ至ル目的ハ

成ニ達スル處ナラズテ止ルベシ

第五 流亡ノ債負ニ對シ地巨高ノ信用ヲ得ルル物ナルヲ

以テ事業ノ成否トスルニ是レモナレハ一身ノ進歩ハ自論部ヲ以テ

ワ身ヲ誤テ聲息ノ盡業アルヘカナルヲ

第六 各品ノ種類ニ應ジテ一定ノラスト至クハ品

ノ正確ナル定アル巨高ニ依リ將來ノ條約ヲ定メ異業ヲカラシムルヲ

シ業要トスヘシ故ニ本條約新開條約ヲ以テ漫ク公告スル等ハ其

ハモテ不為ノ措行可ナリ

第七 條約ノ巨高ヲ精撰直ニ條約スヘキモノト是定ムルハ

ハ便宜最政府ノ同意ヲ得ルルヲアルヘシ

第八 是存品ヲ持存スルニ必ズ原價大振出ニ産出ノ

數量ヲ調理シ注文條約ノ際ニ於テハ初々ナキヲ業要トス

第九 條約ヲ行ハズニ先ニ條約ニ依リ條約ヲ要シ將來便

宜ヲ高ルカ為メ各品ノ習俗ニ依リ條約ニ依リ條約ヲ為カシ

ルヲカシルハ是宜ニ條約ヲ為スルヲ得ベシ

第十 條約所定ノ如クニ依リ其物産ヲ當國ヲ以テ為メ

内務省

第一番要の方より証據をとりて方尋り候下候ハ此ノ旨スルハ
シ定メ定メ電報ヨリ其方ヨリ勅業頭ノ告知スレテ存知ノ能
キヲリヤシムルバシクハ其方取テ送テ又其方ヨリ返答スベシ

第十一 仕地ヲ得テ本店ヲ設ケ又ハ存知ノ人ヲ派シセシ
ムルハ帰船ノ上ハ仕地ノ事候ヲ辨明シ由物大藏兩江指揮
ヲセフベシト宜ク候モ此ノ旨ナルノ如ク又ハ必要ノ目的アルハ
其ノ其都立ヲ豫定シ候モ然モ然モ其旨ヲ為スルハ其旨ノ旨ニ
姑ケナカルベシ

第十二 諸大費ノ仕所方任ニ初メ成認ノ標準候ノ旨ノ上ハ
積業スヘモ
第十三 派中ノ上ハ此ノ旨毎一週日ノ事ノ有テ同ワスル
候ヲ以テ事候ヲ報スヘキ

第十四 仕地積業スルハ是方ノ物ハ存知ノ事候
候ハ仕地ノ需用ノ適切スヘキモ其ノ旨切深知シ且積業ノ便
候積業ノ旨候等詳候メテ之ヲ報告スヘキ

第十五 英國ノ事候積業ノ旨ハ其ノ旨ニ在テ米國ニ巡回シ此ノ旨ヨリ
在留副領事大ニ勅業察派中ノ神報ハ其旨候ノ上ハ其旨候
ノ旨候ヲ陳述候力ニテ此地ノ積業ヲ振テ其旨候ノ旨候ニ
但し是存知ノ旨メ神報ハ其旨候ニ送テ候

第十六 此ノ旨候一製業ノ事即其他の旨候ノ旨候アルカ候
一旦其旨候スルハ其旨候ニ在テ
仕地派中ヨリ存スルハ其旨候ニ在テ其旨候ノ旨候ノ旨候
左ノ旨候ニ在テ

第十七 仕地積業ヲ振業振テ其旨候ノ旨候ハ其旨候ノ旨候
其旨候業頭ノ旨候スルハ其旨候ノ旨候

第十八 此業ノ旨候スルハ其旨候ノ旨候
勅業頭ノ旨候スルハ其旨候ノ旨候

勅業頭ノ旨候

人恒後、上へ内務卿、改テ諸々勸業頭之ヲ命スルモノトス

第三 此勸業之任事人モ、所々官名ヲ所与セシテ

換当若采、ハ勸業寮ノ用違ヲ命シマシ、所屬スルモノハ本
寮用違何系所屬ヲ命スベシ、依テ法律共、於テ「普通通
人民ト見做サ、ルヲ得ルルヘシ

第四 此勸業之任事人、ハ一功ノ事務、總テ勸業頭ノ捺印アル

ニ付サレハ、シテ施行スルヲ得ルベシ

但事務ノ大且ニ重テルモノハ勸業頭之ヲ決スルヲ得

不心ス内務大臣、或ハ所々、決テ仰テ或ハ時宜ニ依テ

回請、或ハ評シ、又成規定例アルハ、事任ル

コハ、後宜換當人ニ委任スルヲ得ルベシ

第五 換當若采ハ、所屬ノ者ヘ、ハ為年當金月額ヲ定メ

勸業^ノ於テ相与之ヲ支給スベシ

第六 此勸業ノ開カシ、諸費用ハ換當若采ノ開申、

修勸業ノ之ヲ検査シ、回債取テ之ヲ支給スベシ

第七 此勸業ノ開カシ、費用ノ精算、ハ勸業頭ノ修テ

官名ノ親身、ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

修テ之ヲ勸業頭、或ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

大ヘテ事

第八 換當若采ニ、換當又ハ、所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

當カ勸業寮、或ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

第九 官務、或ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

此等ノ事、ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

ルノ目的アルヲ得スベシ

一 本部ノ物産ヲシテ、或ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

皆、通セシカ、或ハ所屬ノ者、或ハ所屬ノ者、

累況等部の下に其の如何の辨明の時内是存ちり所為し懸
かへん懸告の有るへり。

一 本邦より此用産多し理テ請ふる物品に關スル諸般ノ取扱
者スヘリ

此種地員本邦へ歸ルル諸物品ノ累況又此用産ノ于リ
難スレテ本邦より此地へ歸ルル諸物品ノ累況又此用産ノ于リ
注意し
注意し、是等ノ累況ノ宣稱ニ之ヲ換當者ト懸告スヘリ

一 各國も業上ノ際ニ得例ノ改定ハ勿知如勿知且易上ノ關
係ヲ起スヘリ諸條ノ其時ノ郵便又ハ電信ヲ以テ報先スヘリ

一 此中ノ諸般物條約ヲ確立シ金錢ノ精算ヲ公明ニシ
ノ品ヲテ謹ミ勉メテ外人ノ信任ヲ得ルヲ要ス

一 此中何支拂ノ金錢カシテ諸部ヲ確立シ儲蓄法
照準換當人ノ開申スヘリ

一 此中何の換當人代理ノ權ヲ以テ諸般ノ從從金錢カシテ
却る自己ノ名ヲ以テ處分スルヲ得ル

一 物に關スル條約ヲ定ムル順序ノ其ノ是本ヲ以テ優
カシ多數ヲ定ムル後々存貯各製主人產出者等ハ各
領事ニテ之ヲ蹴りスルヲ普通ノ例トシ臨時細則ノ其
ヲ察シ根拠動搖スルヲ謹ムヘシ

一 此等業ノ累況ノ金錢物品ノ勿知此細則ノ其ノ是本
此ノ分思フ別別一切限ハスルヲ以テ懸告トス

一 此業ノ從事スルモノモ私利ヲ計リ又ハ勸業ノ換當
ナクシテ官竊ノ由外人ノ其ノ業上ノ累況ノ懸告ヲ為ス
トテ以テ懸告トス

一 換當者ハ勿知此業ノ從事スルモノモ此條例規則
ヲ確立シ勉勵スルヲ以テ懸告トス

列 務 人 員

ヲ勸業ノ爲メ且其奨励ノ状ヲ爲スヘシ
但し右心故送ハ勿ク且其本身存アル内
協大藏与御決裁上ハ以テ之ヲ金ヲ没取スルナ
ヘシ

大正一年四月
陸軍省
贈

英國派出官員へ委任状寫

嘗テ英國ニ於テ募集セシ新旧公債ヲ本年ヨリ
進次支消スルニ當リ我國ノ物産ヲ彼國ニ輸送シテ
之ヲ賣捌キ其代金ヲ以テ右支消ノ用ニ充ツル等取
扱ヲ爲サシムルニ付キ委任スル所ノ條々左ノ如シ

第一條

此節委任ノ一件ハ該地方ノ豪商(又ハ商社)中ニ於テ尤モ確實
ニシテ信憑アルモノ一二社ヲ撰ミ以テト爲シ此者ニ依頼シテ
諸事不都合無之様取扱フベキ事

第二條

右ノ如クトモトニ依頼シテ其事ヲ取扱フニ付テハ此者ト次條
ノ旨趣ニ體シテ約束等ヲ取極メ不都合無之様取計フベキ事

第三條

第一款 此トゼントハ此節委任ノ一件ヲ取扱ハシムル為メ申付
ケタル用事人ト見做スベキ旨ヲ以テ取極ムル事
第二款 此トゼントニ依頼スル上ハ能ク之レト協和ヲ遂ケ氣脈
ヲ通シ到底時機ヲ愆マリ損失ヲ取ラザル様注意スベキハ
勿論其計算ヲ詳明ニシ損益ヲ考定スルヲ所要タル儀ニ
付キ我物産ノ内既ニ輸送委託シタル分ハ不及申其他地方
ノ好尚ニ属シ又ハ賣捌ノ便宜ニ供スルモノヲ始メ此外何等ノ物
品タリトモ賣買ノ景况價直ノ昂低其他ヨリ貨幣ノ時價為
替ノ相場等ニ至ル迄凡ソ賣買交換上ニ於テ必要ナリト見込
ム事ト件ハ都テ此トゼントヲシテ時々ノ報告ヲ為サシムルノ
手續ニ取極メ置ク事

第三款 我物産ヲ此トゼントヘ送付スルニ付テハ能ク其方法ノ

便否ヲ探訪シ税關通荷ノ都合并蔵敷何揚賃等凡ソ物
産送輸ニ付テ關係ノ事件ハ遺漏ナク注意識認シ到底不都
合無之様取極メ置ク事

第四款 若シ一トゼント不都合ノ次第アリテ到底依頼無覺束
見込ムキハ直ニ其者ヲ謝放シ更ニ他トゼントヲ撰用スヘキ
儀ニ付キ此際ニ臨ミ不都合無之様最初約束取組並即能
ク注意シ其旨趣ニ體シテ取極メ置ク事

第五款 右ノ外約束取組ニ付テ必要ナル事件ハ實地適宜ノ見
計ヲ以テ夫々不都合無之様取極ムヘキ事

第四條

賣捌代金ハ須カラク此トゼントヨリ其時々之ヲ請取り常ニ之
ヲ得意ノ銀行へ預テ置キ其期ニ至リ公債償却ノ用ニ供シ彼ノ
拂込證書ヲ取置クベシ而シ此際能ク為替相場其他ノ都合ヲ見

計に到底損失無之様注意取計フヘキ事

但本文の節ハ其次第并計算及ヒ其節ノ為替相場等ヲ
詳記シ彼ノ拂込證書ヲ副ヘ之ヲ本邦へ報告スヘキ事

第五條

公債償却ノ外臨時彼地ニ物品購求等ニ付キ仕拂フヘキ金額
アリテ我輸送物産ノ全部又ハ幾部分ヲ賣捌キ其代金ヲ以
テ右ノ仕拂ニ充ツルアル時ハ大蔵卿ノ命ヲ受クベシ尤取計方
ノ手續ハ第四條ノ旨趣ニ基キ併セテ同條但書同様ノ手續ヲ履
ムヘキ事

第六條

此節ニ付テハ必要ナル件々即チ我物産ノ内(從前今後
ノ別ナリ)地方ノ好尚ニ屬シ又ハ賣捌ノ便宜ニ供スルモノ、種類區
別并時々ノ賣買景况價直昂低等及ヒ貨幣ノ時價為替ノ

相場其他ニ至ル迄凡ソ商賣貿易上ニ於テ必要尺クベカラザル
ノ、常ニ用意苦心精細ノ探訪識語ヲ遂クルルノ所要タルベシ
而ノ其ノ件々ハ其部類ヲ分チ之レガ計表ヲ製シ若シテ人言
面ヲ以テ郵便ノ度毎ト必ス之ヲ本邦へ通知スヘキ事

第七條

右計表ノ進達并一切文書ノ往復ハ内務大蔵兩卿ノ名宛ニ
致スルト心得ヘキ事

第八條

此節委任ノ一件ニ付テ苟モ便利ナリト見込ム事件アラハ速カ
ニ其次第ヲ具狀シテ内務大蔵兩卿ノ決ヲ仰クヘキ事

第九條

此節委任ノ一件ニ付テ若シ此箇條中實地不適當等ノ儀アリ
テ其趣ヲ申立ルニ於テハ之レガ變通潤色等ヲ加ユルノ之レ有ル

大蔵省

八千事

右之條之委任候也

明治八年十月廿四日

大藏卿大隈重信

内務卿大久保利通

勸業寮七等出仕富田冬三殿

租稅寮七等出仕南保殿

同官負へ心得達寫

加一條

此節委任ノ一件内務省ハ勸業頭大藏省ハ國債頭ニテ之ヲ擔當スルニ付キ此擔當振等ハ兩省協議ノ上追而確定可相達差向候條件ハ左ノ通り心得ヘキ事

第一款 此事業ニ付内國ノ豪商又ハ商會中照ルヘキ者ハ用達ヲ申付テ右輸送物品ノ取集方其他凡ソ内國限リ關係ノ諸事件ヲ取扱ハシメ此者ノ名前ヲ以テ彼地ノセント其他ノ外人ハ應酬セシムル等ノ事アルベシ而シテ此詳細ハ追テ用達申付其他ノ慶介濟ニ次第相達スヘシ

但シ本文ノ次第ニ付キ委任狀中第三及第四三款ノ手續ハ凡ソ輸送物品ニ於ケル内外港并海上關係ノ事件ニ

彼地ノ口口ヤシトニテ一切引請ケサセタル上ニテ税関通
シ 荷其他ノ取扱振ヲ能ク注意シテ取極メ候儀ト心得ヘ
シ

第二款 凡ソ金錢遣拂ノ事件ハ國債寮ニ於テ我港内ニ在
ル東洋銀行ニ依頼シ以テ之ヲ處分スベシ故ニ委任状中
第四條ニ掲載セル得意ノ銀行ハ即チ彼地ニ在ル同銀行
ト取極ムベシ而シテ我賣捌代金等ヲ此銀行へ預ケ置クニ
ハ常ニ利子ノ割合等ニ注意シテ可成丈都合結リ取極
ムベシ

第二条

此節ニ委任ノ一件ハ別紙寫ノ通り是迄大蔵省雇米人(千ヨリ)ニ
シテ付ルヤムニハ依頼ニ及ビ置キタル儀ニ付キ諸事同氏ト協議ヲ
遂ケ取計フベキ事

第三条

此節委任ノ一件ハ別紙寫ノ通り英國在留公使ヲシテ指揮監
督セシメル儀ニ付キ此委任箇條中ノ外ハ勿論其箇條中ノ事
右公使ト協議ノ上着手スルト心得ヘキ事

第四条

右ニ付キ委任状中第九條ノ如キ事一件モ必ス一應右公使ト打合
セ其指揮ヲ仰クベシ若シ右公使ニ於テ思料意見ノ及バサル所
アラバ其事ノ緩急ヲ見計ヒ郵便又ハ電信ヲ以テ内務大蔵兩卿
ヘ申立テ其決ヲ乞フベシ等ニ付キ兼テ此旨心得置クベキ事

第五条

此事業ヲ命スルニ付テハ内務大蔵兩省ノ區域ニ不拘二人申合結
テ協力事務一體ニ取扱可致事

第六条

別紙委任状ノ儀ハ勿論ニヤレドモ其他ノ外國人ヘモ亦シ可然候
得共此心得違ハ專ラ當人限リ承認スヘキト心得ヘキ事
右之條ガ可相心得モノ也

明治八年十月廿四日

大藏卿大隈重信
内務卿大久保利通

勸業寮七等出仕富田冬三殿
租税寮七等出仕南保殿